平成 30 年度　社会福祉法人三恵会事業報告書

1. 事業概要

特別養護老人ホームを中核とし、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム等の社会福祉事業を行い、お年寄りの介護を通して、地域の方々の生活を支援しています。

2. 理事会及び評議員会

第 1 回理事会及び評議員会　平成 30 年 6 月 17 日(日) ひかわ会議室

（参加者　評議員 6 名、理事 6 名、監事 2 名、事務局 1 名）

1. 平成 29 年度事業報告
2. 平成 29 年度決算報告
3. 監事監査報告
4. 訪問介護事業の休止に伴う定款変更について
5. 市監査指導室・消防署・保健所の立入検査指摘事項について
6. その他

第 2 回理事会及び評議員会　平成 30 年 11 月 25 日(日)ひかわ会議室

（参加者　評議員 7 名、理事 6 名、監事 2 名、事務局 1 名）

1. 平成 30 年度上半期事業報告
2. 平成 30 年度一次補正予算案について
3. 経理規定の変更案について
4. その他

第 3 回理事会及び評議員会　平成 31 年 3 月 17 日（日）ひかわ会議室

（参加者　評議員 5 名、理事 6 名、監事 1 名、事務局 1 名）

1. 平成 30 年度下半期事業報告
2. 平成 30 年度二次補正予算案について
3. 平成 31 年度事業計画と当初予算
4. 就業規則の変更
5. その他

3. 監査会

平成 30 年 6 月 12 日（火）　ひかわ会議室に於いて

（参加者　監事 2 名、理事 2 名、事務局 1 名）

1. 平成 29 年度収支決算の監査

4. 目標に対する自己評価

基本目標 1	**高齢で普通の生活が出来なくなった人達に対して「あたりまえの生活が出来るように支援していく」と云う法人理念に則り、お年寄りとそのご家族を支援していく。**
重点課題	関係者とのコミュニケーションを深め、相互理解と共通目標の確認をする。
評　価	法人理念が職員に浸透してきており、入居者・家族ともコミュニケーションが取れている。今後も引き続き法人理念に則り運営していく。

基本目標	**養護老人ホーム富士見園の建替え計画の具現化をする。**
重点課題	市の担当者との打ち合わせ。
評　価	令和元年 5 月 17 日（木）にさいたま市介護保険課の担当者と打ち合わせを行う。令和元年度中に詳細を決め、計画を進めていく。

特別養護老人ホーム三恵苑事業報告

1. 事業概要

人生の最後を悔いなく、楽しく送って頂けるように。
そして『あたり前な生活が出来るように』特養入居者 60 名と短期利用者 20 名のお年寄りの生活を支援しています。

2. 月間利用者延人数

（特養・短期合計）

29 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	2,365	2,384	2,257	2,327	2,369	2,214	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
	2,276	2,309	2,461	2,384	2,060	2,335	27,741
30 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	2,283	2,336	2,231	2,251	2,318	2,280	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
	2,353	2,276	2,398	2,385	2,208	2,446	27,765

3. 退所の状況

性別	年齢	介護度		性別	年齢	介護度	
女	84	4	病院にて逝去	男	86	4	苑にて看取り
男	77	3	病院にて逝去	女	90	5	療養病院入院
男	95	4	苑にて看取り	女	96	4	苑にて看取り
男	72	3	病院にて逝去	女	92	4	苑にて看取り
女	72	4	苑にて看取り				
女	94	4	苑にて看取り	退所者平均年齢 84.5 歳			
女	71	5	療養病院入院	看取り　昨年度 6 名　　今年度 6 名			

4. 入居者の年齢構成

（3 月末日現在）

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均	最高齢
男	2	3	3	3	2	1	1	0	79.5	95
女	1	2	4	4	13	15	4	2	87.8	102
計	3	5	7	7	15	16	5	2	85.7	102

5. 入居者の介護度別人数

（3 月末日現在）

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
29 年	1	3	17	24	14	3.80
30 年	1	3	10	22	24	4.08

6. 事業所で行ったこと

4 月	お花見の会	10 月	バスハイク
5 月	端午の節句	11 月	焼き芋会、外注食会
6 月	運動会、外注食会	12 月	クリスマス会、餅つき
7 月	納涼祭	1 月	新年の集い
8 月	七夕の会、入居者健康診断	2 月	節分の会
9 月	敬老会	3 月	ひな祭りの会

○ その他毎月、ホーム喫茶、手作りおやつ、クラブ活動（書道クラブ、民謡クラブ、クレヨンクラブ、お花クラブ、ハンドベルクラブ）お誕生日企画を行いました。

7. 職員の状況　（特別養護老人ホーム、短期入所事業所の合計）

職　名	人数		兼務の状況	性別	資　格
	常　勤	非常勤			
施設長	1			男	社会福祉主事
事務員	1			女	衛生管理者、ﾍﾙﾊﾟｰ 2
事務員		1		女	社会福祉主事
相談員	1		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
ケアマネ	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
主任	1			男	介護福祉士
主任	1			女	介護福祉士
リーダー	1			男	介護福祉士
リーダー	1			女	介護福祉士
介護職	8			男	介護福祉士
介護職	5	2		女	介護福祉士
介護職	1	1		男	介護職員初任者研修
介護職	2	5		女	介護職員初任者研修
介護職	2			男	
看護師		2		女	正看護師
看護師	3			女	准看護師
栄養士	1			女	管理栄養士
介助員		2		男	
洗濯		3		女	
宿直員		3		男	
合　計	30	19	介護職員：入居者数　＝　1　：　2.33		

8. 各委員会

職員による各種委員会活動があります

・安全対策委員会　・ケア向上委員会　・マニアル委員会
・衛生管理委員会　・感染症対策委員会　・褥瘡対策委員会
・身体的拘束適正化委員会

9. 目標に対する自己評価

特養 基本目標 1	入居者が三恵苑での生活を心から楽しんで頂けるよう、 職員全員で協力しながら“三恵苑”という生活の場を作っていく。
重点課題	入居者に対する思いやり、職員同士での思いやりの心を忘れずに業務を行う。常に相手の気持ちに立って考え行動する。
評価	入居者やそのご家族、また職員同士において、相手の立場を考えて思いやりをもった言動がしっかりと出来るようになってきた。しかし、今年度は職員の人数が少ない時期が多くあり、多忙な時には心に余裕が無くなってしまう場合もあった。今後も引き続き“思いやり”を持って業務を行います。
特養 基本目標 2	入居者や職員にとっての安心・安全な環境づくり。
重点課題	入居者が安心して過ごせるような環境を継続して整備していく。また職員の体に負担がかかりやすい業務を見直し、長く安心して働ける職場をつくっていく。
評価	入居者 1 名がトイレ内にて転倒し怪我を負ってしまった。フロアーでは床の剥がれもあり、今後も危険と思われる箇所はすぐ修繕を行い対応し、大きな事故につながらないよう努めていく。 また常勤の介護職員 1 名が腰痛によって休職となり、復帰後すぐに退職となってしまった。職員の腰への負担を可能な限り少なくできるよう、介護用品や介護方法を模索していく。
介護【1階】 目標	居心地の良い空間の提供 ホウ・レン・ソウを密にし、事故防止に努める
重点課題	①ご利用者様が気持ちよく生活ができるよう清潔な環境作りに努める ②意見交換、話し合い、情報交換をしっかりと行う事で共通認識を持つ ③目配り・気配り・心配りの慣行
評価	①フロアー・居室の整理整頓・掃除等を定期的に行い、清潔な環境を維持できた。しかし床の剥がれ等も時折みられるので、事故に繋がる前に報告し対応していく。もっと職員全員が意識を持って細かい所にも目を向けられたら尚良いと思う。 ②職員の人数が少なく、新人職員が多い中でも、5 分間ミーティングによる意見・情報交換は随時行なっていた。 ③誤薬・与薬ミス・発生不明の骨折・内出血等は発生しているので、今後も事故予防に対する意識を各々でしっかり持つよう努めていく。
介護【2階】 目標	笑顔が絶える事のない環境作り 入居者が安心して生活して頂けるケアの提供
重点課題	①思いやりの心を持ち、明るく温かい雰囲気作りを意識していく ②職員間の情報共有を徹底し、技術・知識を高めより良いケアを提供していく
評価	①職員の人数が少なく、業務に追われてしまうことも多かったが、入居者が笑顔で過ごせる様に環境作りを行えた。 ②5 分間ミーティングや申し送りを利用し、職員間の情報共有を行った。認知症の対応については、個人差があるため今後はさらに改善していきたい。

医務室 目標	入居者の状態把握に努める 入居者の医療対応時の書類の充実
重点課題	①高齢な入居者が多く、ADL を維持しながら少しの変化にも状態観察を行い対応する。 ②医療機関受診時に必要とする“本人や家族の意思確認“の書類、又は医療面で必要とする各種書類の再確認をする。
評価	①入居者に関して、大きな体調不良や入退院を繰り返す人は少なく、皆さん安定して生活していました。初利用の方については状態をこまめに確認し、その都度対応方法を検討しながら不安無く生活できるように努めた。 ②昨年度から書類作成についてはまとめることが出来ている。ただフェイスシートの書き換えが間に合わないことあるため、今後の検討課題とする。
厨房 基本目標	①給食の安定供給 ②衛生管理の徹底 ③個別対応の充実
重点課題	①食材の価格高騰などありますが、食材選定や調理の工夫をして、毎回おいしい食事を提供します。 ②集団食中毒の予防・対策を徹底します。マニュアルの遵守に努めます。 ③他職種で意見交換して適切な食事提供を行い、利用者の健康管理に努めます。
評価	①野菜は旬のものを多く取り入れた。また調理の工夫として、工程を増やすことで入居者が食べやすい状態で提供できた。 ②衛生ルールに従い業務に努めた。特に中心温度および薬剤殺菌の測定と記録を徹底した。 ③看護師・介護職員と協働し、入居者の状態に応じて適切な食事の提供ができた。

養護老人ホーム富士見園事業報告

1. 富士見園基本方針

1　利用者の皆さんの自立と個人の尊重を重んじ、生きがいを持ち、安心して楽しい生活が出来るように支援します。

2　職場の将来展望において、職員全員が共通意識のもと、意識改革と自己研鑽を積み、働く喜びを共に感じられる職場にします。

3　一施設としての事業展開にととまらず、広く地域の福祉推進者としての視点を常に持ち行動します。

2. 入居者の状況

1）実施機関別在園者数　　H31.4.1 現在

機関／性別	大宮区	西区	北区	見沼区	中央区	桜区	浦和区	南区	緑区	岩槻区	熊谷市	蓮田市	富士見市	志木市	合計
男	9	9	11	6	1	1	1	0	0	6	0	0	1	0	45
女	7	12	7	12	1	2	1	0	0	2	0	0	1	0	45
計	16	21	18	18	2	3	2	0	0	8	0	0	2	0	90

2）年齢別在園者数　　各年度末調べ

年　度	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
年　齢	男	女	男	女	男	女	男	女
65 歳以下	1	0	1	0	1	0	1	1
65～70	2	2	2	3	2	2	2	2
71～75	8	5	9	4	8	5	9	6
76～80	11	9	9	11	11	9	9	12
81～85	5	13	12	8	5	13	12	7
86～90	15	10	6	13	15	10	6	11
91～99	1	6	1	6	1	6	1	6
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43	45	40	45	43	45	40	45
総　計	88 名		85 名		86 名		89 名	

※平均年齢　男 78.8 歳　女 82.0 歳　平均 80.4 歳　最高年齢　男 94歳　女 96 歳

3)月別入・退所者状況　　H30 年度分

月　別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
在　籍		88	86	84	87	87	86	89	86	89	89	89	89		
入園	男	1	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	6	10
	女	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4	
退所	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7
	女	0	1	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	6	

4)退所事由別　　H30 年度分

年齢／性別	死　亡	施設替え（特定施設等）	入　院（措置切れ）	家庭復帰	計
男	1	0	0	0	1
女	1	2	3	0	6
計	2	2	3	0	7

5)入園前の居所別　　H31.3 末現在

居所／性別	家　庭						小計	病院老健	施設（救護）（厚生）（身障）	その他	計
	配偶者	子供	兄弟姉妹	その他の親族	ひとり暮らし	その他雇主等					
男	1	4	1	1	26	1	34	2	1	8	45
女	0	8	3	3	28	0	42	2	0	0	44
計	1	12	4	4	54	1	76	4	1	8	89

6)在園期間別　　H31.3 末現在

居所／性別	1 年未満	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6～9	10～14	15～19	20 年以上	計
男	5	9	3	6	3	2	12	3	1	0	44
女	4	6	6	4	3	2	6	11	1	2	45
計	9	15	9	10	6	4	18	14	2	2	89

平均在籍年数 6.2 年

7)介護保険認定状況　　H31.4.1 現在

区分	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ	要介護Ⅳ	要介護Ⅴ	合計
男	2	2	4	6	3	0	0	17
女	2	3	7	12	2	1	0	27
計	4	5	11	18	5	1	0	44

3. 目標に対する自己評価

基本目標 1	施設整備計画を具体的に実行していきます。
重点課題	①施設整備計画を具体的に立案・実行していきます。 ②施設の維持管理を計画的に実施していきます。
評価	①施設整備計画について具体的な立案・実行を目標としたが、達成する事は出来なかった。施設の老朽化がさらに進んでおり早急な施策が必要である。 ②補修・修繕等が多く対応に苦慮している。基本的な設備に不具合が生じているが、設備が古く修理不能も出て来ており緊急的な代替え対応を検討している。引き続き安全と快適に過ごせる環境作りを意識し出来る限りの対応を実施し行きたい。
基本目標 2	自立した生活が継続できるようより的確な利用者支援を実施していきます。
重点課題	①個別支援計画に基づいた生活・介護支援を的確に実施します。 ②利用者が安全で快適に生活できるように支援していきます
評価	①一般利用者へ自立支援の強化を図った。機能維持・改善を目的とした運動やレクレーションを実施した。 ②ケース検討会、勉強会を定例化しサービスの向上を図った。
基本目標 3	職種に応じた研修会参加を計画し、全職員のスキルアップを図ります。
重点課題	① 年間研修計画に基づき全職員の研修会等への参加を実施し職員の専門的知識・技術の習得、資質の向上に努めます。 ② 各職員の「チャレンジプラン」での能力開発目標に基づき、職員の資格取得やスキルアップのための研修会・講習会への参加を推進します。
評価	①年間研修計画に基づき全職員研修参加を実施した。 ②養護分科会では、施設見学を兼ねた研修会に積極的に参加した。
基本目標 4	防災体制・感染予防対策の整備強化を実施します。
重点課題	①あらゆる災害に対応できるよう防災対策の整備と強化を図ります ②災害時に必要な給食給水及び資機材配備の整備を行います ③緊急時の対応が迅速且つ的確に実施出来るための訓練・講習会を実施します。 ④感染予防対策の強化と見直しを行います。
評価	①本年度も介護職員が中心となり炊出し訓練を実施した。 ②感染症対策を早期に徹底した。1 月にインフルエンザ感染者が数名連続的に発生したが、早期対応で感染の拡大を防ぐことができた。
基本目標 5	地域に密着した福祉拠点を目指していきます。
重点課題	① 地域福祉の拠点として施設の役割・機能を最大限発揮していきます。 ② 地域との交流を積極的図り、地域との連携と協力体制をより深めていきます。 ③ 介護体験や社会化体験などを目的とした研修生、実習生を積極的に受け入れていきます。又、ボランティア等の活動についても内容・目的など調整し受け入れしていきます。

評価	①お花見の会は天候に恵まれ葉桜ではあったが盛大に開催することができた。納涼祭は悪天候のため前日に中止を決定し、室内で開催した。

2)セクション別　目標に対する自己評価

養護 基本目標	ADL・IADL の低下を防ぎ、一日でも長く安心して生活出来る様自立に向けて支援していく。
重点課題	・利用者の状態を把握し、各セクションと連携を取り個々にあった対応をしていく。 ・本人が自分で出来る些細な事でも、長く継続できるよう支援していく。
評価	・平成 30 年度は男性 6 名・女性 4 名の方が入所された。個性的な方が多く些細なトラブルはあったが、現在は落ち着いて生活されており、各セクションと連携を取り合い支援できた結果だと思う。引き続き継続していく。 ・皆さん病状や年齢を重ねていくに連れ、今まで出来ていた事が出来なくなってきた方が多く見られた。現時点で出来る事を継続できる様にしていきたい。
特定 基本目標	利用者の「思い」を大切にし、落ち着いて過ごしていただけるプランの作成。
重点課題	・気づきの共有 ・信頼関係の構築と維持 ・報・連・相の徹底
評価	新規作成 4 名、更新作成 16 名の方々のプランを作成したが、「困っている事もやりたい事も無い。今のまま元気に過ごしたい、園の生活がいい。」と話してくださる方が多く、落着いて過ごしていただけたと思う。　8 月からサービス提供の都築さん、在宅時は「ディに行っていた」との事でディ利用したが、11　月に不穏になり利用を中止した。プランに入れても「思い」は変遷するので、アセスメントやモニタリングの都度、対応を行ないたい。
訪問 基本目標	日々の生活の中で現状維持と健やかな暮らしが出来るようお手伝いする。
重点課題	・少しの状態異変にも気づき対応する。 ・自ら「参加したい」と気持ちになるよう促す。 ・目配り・気配り・心配り
評価	・野草茶屋でゆっくりと流れる雰囲気の中で皆さん穏やかな日々を過ごせていたように思われます。残念ながら楽しいのかつまらないのかの意見は口頭では聞けなかったが表情から伺う事が出来ました。大きな事故もなく、過ごせた。
医務室 基本目標	体力と残存機能の維持
重点課題	個々にあった体力作りとして、ラジオ体操、散歩、ゲーム等の積極的参加 日常生活基本動作を増進するための働きかけ→入浴日には入浴をする、食事時の動作など、小さなことでも出来ることはして頂く
評価	体力作りに関しては、不参加時、促しに応じてくださるが、入浴に関しては、促

	しになかなか応じていただけない場合が多かった。どのように促していくかが課題となる。また、職員サイドの援助方法がさまざまで、統一性も求められると思う。
厨房 基本目標	衛生に十分考慮し、在園者の皆様に喜んで頂ける食事作り
重点課題	食品衛生知識の構築 薄味の食事作り
評価	・嗜好調査にて、昨年よりも美味しいとの意見が増えた。 嗜好調査の結果も踏まえ、検食簿の所見や在園者の下膳時の声を今後の食事作りに反映させていく。 ・食品の衛生知識については、今後も継続。研修会等積極的に参加する。 ・薄味の食事作りについては、朝食の味噌汁を牛乳に変更した為飛躍的にナトリウム摂取量が減少した。

特別養護老人ホームひかわ事業報告

1. 事業概要

1)入居者、一人ひとりに合った援助を心がけ、ひかわでよかったと、入居者とその家族に思ってもらえるよう努力します

2)施設の全体行事として、あおぞら市・納涼大会・敬老会を行なう

2. 月間利用者数　（特養、短期合計）

29 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	3,483	3,542	3,535	3,633	3,595	3,375	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	3,533	3,456	3,618	3,549	3,225	3,646	42,190
30 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	3,516	3,512	3,430	3,558	3,562	3,390	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	3,521	3,450	3,395	3,445	3,146	3,386	41,311

3. 退所の状況　　退所者 35 名 （昨年度 16 名）

性別	年齢	介護度		性別	年齢	介護度	
女	98	3	療養病院	女	74	5	療養病院
男	91	4	病院にて死亡	女	98	4	看取り
女	95	5	看取り	女	86	4	病院にて死亡
女	85	4	療養病院	男	87	5	病院にて死亡
男	93	4	病院にて死亡	女	93	4	看取り
男	73	5	看取り	女	98	4	看取り
女	96	5	三恵苑に移動	女	90	5	看取り
女	97	1	看取り	女	94	3	看取り
男	84	4	療養病院	男	89	5	看取り
女	87	4	病院にて死亡	女	92	3	病院にて死亡
女	98	2	療養病院	女	95	4	看取り
女	88	4	看取り	女	95	3	ひかわにて死亡
男	83	3	三恵苑移動	女	96	5	看取り
女	86	3	療養病院	女	97	5	看取り
女	97	4	病院にて死亡	女	92	4	病院にて死亡
女	102	5	看取り	女	83	4	病院にて死亡
女	88	5	療養病院	女	95	4	看取り
女	86	5	療養病院	退所者平均年齢歳　90.88 歳（昨年度 87.75）			
				看取り　昨年度 9 名　今年度名 15 名			

4. 入居者の介護度別人数　　（3 月末日現在）

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	人数計	平均介護度
29 年	8	8	26	36	29	107	3.65
30 年	6	9	38	29	24	106	3.53

5. 入居者の年齢構成　　（3 月末日現在）

	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均	最高齢
男	0	0	1	4	4	8	7	2	0	85.8	96
女	1	0	1	5	12	16	26	13	5	89.1	102
計	1	0	2	9	16	24	33	15	5	88.3	

6. 月別入・退所者状況

月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
在籍		108	106	105	104	106	105	106	105	106	107	106	102		
入院者		8	5	4	4	4	4	2	3	6	6	5	4		
入所	男	1	2	0	0	2	0	1	1	1	1	1	0	10	33
	女	3	1	4	1	2	3	2	1	3	2	0	1	23	
退所	男	1	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	7	35
	女	2	2	3	1	3	2	2	2	3	2	2	4	28	

7. 職員の状況　（特別養護老人ホーム、短期入所事業所の合計）

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1		○	男	介護福祉士、社会福祉主事
事務長	1			女	社会福祉士、衛生管理者
事務員	1			女	簿記検定 1 級
相談員・ケアマネ	3		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
相談員・ケアマネ	1		○	女	介護支援専門員、社会福祉士
ユニットリーダー	1			女	介護福祉士、ユニットリーダー研修
ユニットリーダー	2			男	介護福祉士、介護支援専門員
ユニットリーダー	4			男	介護福祉士、ユニットリーダー研修、社福（1 名）
ユニットリーダー	5			男	介護福祉士
介護職	15	8		女	介護福祉士、介護支援専門員（1 名）
介護職	9	0		男	介護福祉士
介護職	3	0		女	介護職員実務者研修
介護職	1	1		男	介護職員実務者研修
介護職	6	19		女	介護職員初任者研修
介護職	0	0		男	介護職員初任者研修
介護職	3	6		女	資格なし
看護師	3	1		女	看護師
看護師	2	1		女	准看護師
栄養士	1	0		女	管理栄養士
介助員	0	2	○	男	宿直兼務（1 名）
宿直員	0	2		男	
合計	62	40	介護職員　：　入居者数　1　：　1.68		

8. 目標に対する自己評価

特養 基本方針	1. 個別ケアの充実を図りユニットケアを推進し、入居者一人ひとりの当り前の生活を実現する。 2. 質の向上を図るための研修へ継続的に参加し、研修内容を全職員に浸透させる。 3. 施設職員としての自分自身や仲間同士の接遇を見直す。
評価	1. 24 時間シートについては、状態が変わった時に随時更新する事とケアプランの更新の際に担当者が更新する事で統一していた。しかし、更新しパソコン上に残したままでプリントアウトせずユニットのファイルに新しいシートを入れていなかったりご本人の状態が変わったのに内容の変更が出来ていなかったり入居して間もない入居者の 24 時間シートが作られていない事等があった。ファイルの中も退居した入居者のシートが入ったままという状況もみられて適切に入れ替えが出来ていない事もあり活用が不十分だったと思われる。24 時間シートはユニットケアを推進する為に必要なアイテムであるため、来年度は 24 時間シートの適切な更新と有効活用に焦点を絞り目指していきたい。本年度における「個別ケアの充実、ユニットケアを推進」と言う意味では、サービス向上委員会を中心にプライバシーの保護を重視した排泄介助について改善をしていく事が出来た点は評価して良い点と思われる。 2. ユニットの人員不足の関係で本年度参加できた外部研修の数は少なかった為、研修報告書の数も減っている。研修報告書をユニットにコピーしファイリングして目を通してもらう事になっていたが、外部研修・内部研修共にコピー・ファイルが不十分なことがあった。来年度も継続していきたい。感染症などの研修に関しては、関連の委員会にて研修に参加した職員が研修内容を発表するという機会で上手く不参加者にも内容を還元できたことがあり次年度も同様の機会があれば活用していきたい。 3. 本年度も、職員の処遇や接遇の方法などでご家族や入居者ご本人から貴重なご意見を頂いたことがあった。加えて職員同士大きな声で話をしているなど改善すべき点も未だにある状況と言える。その反面職員同士お互い意見を出し、協力的な姿も見られる様になってきてもいる。職員の処遇について話し合う機会が無いため、フロア会議やユニット会議等定期的に行う会議を活用し話し合うきっかけづくりにしていきたい。本年度は、各職員が自分の担当のリーダーと相談員を言葉で評価するという新しい試みも実施している。結果は施設長から各個人に伝えられており、必要であれば継続も検討していきたい。
医務室 基本目標	1. 看護における　的確、迅速な対応を目指す。 ① 医務室内の連携を図る。 ② 他職種との連携を図る。 2. 個々の生活における看護の役割を意識する。 ① 個人の尊厳・尊重を重視する。

	② 家族との情報共有を密に行い疾患をふまえた生活の質の向上を図る。
評価	1. ①新人が多く、入居者の把握　業務内容の把握に時間がかかり　連携がうまくとれていないと思われる。 ②完璧とは言えないものの、ほぼ達成出来ていると思われる。 2. ①ほぼ達成出来たと思われる ②入所前の生活や従事していた仕事面、疾患の有無等ご家族様より聴取し入所後の生活、治療に役立てることが出来たと思われる。
厨房 基本目標	（食事サービス部門） 1. ユニット毎での出張料理を行い、入居者の食への関心を高める。また、入居者の目の前で調理を行い、出来立てを食べて頂くことにより、家庭の雰囲気を味わって戴けるよう努力する。 2. 食材の調理法を工夫し、キザミ食の入居者でも、可能であれば形のまま提供できるよう努力する。 3. 食中毒防止の為、厨房内の清掃の徹底と、職員の衛生教育及び健康管理に勤める。 4. 入居者の嗜好を把握し、定期的な献立の見直しや新メニューを取り入れることにより、喫食量の向上と、献立のマンネリ化防止を目指す。 5. 四季に応じて旬の食材を献立にとりいれる。 （栄養管理部門） 1. 入居者、個々人の栄養状態及び嗜好の把握をする事により、喫食量の向上と健康面の安定を図る。又、好物の把握を終末栄養に活用していく。 2. ユニットの特性を生かし、ユニット単位の料理・菓子作りの企画と協力。 3. カンファレンス等により、他職種との連携を図り、栄養業務に生かしていく。又入居者個人の食の意向をつかんでいくことにより、食事量減退時や看取開始時に生かしていく。
	（食時サービス部門） 1. ユニット調理を 3 回企画したが、厨房の人員の都合上 3 回目は実施できなかった。 2. キザミ食の入居者に柔らかく煮えた食材をそのまま提供することもできたが、調理法の工夫により、形のまま提供できる料理が増やせると思う。来年度も引き続き目標としたい。 3. 厨房の扉の閉め忘れを指摘されることが多かった。従業員全員が実施するよう指導していく。 4. 残菜等により嗜好を把握し、不評メニューの中止を行った。 5. イベント料理等により旬の食材の使用を実施した。 6. 配膳時に合わせた盛り付け時間の見直しを行った。 （栄養管理部門） 1. 入居者個々人との触れ合いや、介護者への聞き込みにより、おおよその嗜好は把握できた。

	2. 栄養課主催の出張料理を年 3 回企画し、各ユニットで実施した。ユニット単位やフロアー単位で入居者の笑顔や喜びの声が聞こえる食作りができた。また、ユニットからの企画も多く揚がってくるようになった。 3. カンファレンス等で入居者個々人の食の意向がつかめてきた。食欲のないときや看取り時に個別対応して生かしていきたい。
A-1 ユニット 基本目標	・自分本位の介護ではなく、入居者の楽しみを見つけ、笑顔が引き出せるよう支援する。 ・職員間での情報の共有と、ユニットの美化。
評価	・自分本位という部分に対して、自分なりに笑顔を引き出せていたと思う。 ・情報共有できず、コミュニケーションもまったくとれていないように思えた。美化についてもやっていると思っているだけで大した結果が出せなかった。 ・入居者との作品を一緒に作り、展示できれば良かった。 ・すべてにおいて、スタッフの考え方のレベルが違い過ぎていたため、最低限の情報共有もできていなかった。
A-2 ユニット 基本目標	・職員間の情報交換を密にし、ユニット全体でより良い介護ができるよう努める。 ・積極的に入居者と関わりをもち、入居者、職員共に楽しい時間を過ごせるよう努める。
評価	・お互いが指摘し合うという点ではまだまだ遠慮もあるが、ある程度実行できていたように思える。業務中その場で気付いたことを教えてあげる、教えてもらうことは改善がしやすいように感じる。また、職員間では話をもつ機会も多く、情報交換はできていた。 ・入居者との関わりに関しては、同じことの繰り返しになっている日があり、もう少し工夫が必要だと思うので、レクリエーション等レパートリーを増やしていかないといけないと感じている。 ・入居者の見守りをもう少し丁寧にしたほうが良かった。事故やヒヤリが多かったと思う。
A-3 ユニット 基本目標	・入居者が今まで大切にしてきた暮らしや、こだわり、生活習慣をもとに、現状抱えているストレスや変化を読み取り、心に寄り添った介護で入居者の笑顔を引き出していく。 ・職員それぞれの持ち味を生かして、バランスの良いユニットを目指すとともに、職員間の連携を密に情報の共有を図っていく。
評価	・入居者の入れ替わりが多かった。新しい入居者本人やご家族との会話の中から情報を得ようと心掛けたが、入居者とご家族の言葉に食い違いがあったり、一貫していない発言に戸惑うことが多々あったので、まだこれからと感じた。 ・なかなかゆっくり寄り添うことが出来なかった。出来る範囲では行う努力はした。 ・職員それぞれが自身の持ち味を模索しながらも、自然な会話の中から情報

	の共有を図ってこられたと思う。 ・職員同士はこんなにスムーズな場所があるのかというくらい、連携がとれていた。
A-4 ユニット 基本目標	・入居者の人生を理解し、日々の生活に反映できるユニット作り。 ・入居者、職員共に気持ち良く近い関係を築けるユニット作り。
評価	・少しずつではあるが、入居者と近い関係が築けていると感じるが、入居者によってはまだまだ理解が足りずに上手な接し方が出来ていないと感じる。 ・家族交流会などを通しご家族からも情報をいただけ、入居者に接するときの話題に困らなくなった。 ・目標を立てるからには、実践していける力を各職員が付けていく必要があると思う。 ・面会に来られたご家族と一緒に、各入居者の人生観について共に考えてもらった方が良いと思う。 ・入居者との距離を縮めるため、自身の感情は置いておき、いつも変わらない対応ができるようになる必要があった。 ・気持ちを理解しようとするも、常に平常心での行動ができず関係を近づけられなかった。 ・お互いに気持ちの良い関係を築こうと、各々考えて行動をしていなかった様子が垣間見えた。 ・他のスタッフと連携がうまくとれておらず、独りよがりの理解で行動をしてしまった。
B-1 ユニット 基本目標	・ユニットの環境に気をつけ、変化や季節感のある環境にする。 ・散歩や、生活リハビリを積極的に取り入れ、ADL の低下予防に努める。 ・職員間の連絡をしっかり取り、より入居者に沿った個別ケアを実施する。
評価	・環境整備については、居室のエアコン、トイレドアの開きっ放し、空調・湿度管理等の忘れがちな項目が不十分だった。 ・外出行事については、入居者の体調面や職員数により、積極的に取り組めなかった。出前に関しては、食事形態の低下があり実施が難しく、その分、管理栄養士主導の食事レクに移行していった。 ・ADL については、低下が目立ち、オムツに移行する方が増えた。生活リハビリも、他入居者の介助と事故防止もあり、積極的には行えない状況があった。使用パットについては、夜間帯の安眠を優先すると、大きなパットに移行となってしまう。コスト削減を行いたいが、使用増加傾向にあった。また、入居者の介助中の事故が増えていた。職員の介助方法の確認が必要と思われる。また、職員の腰痛や身体の不調が増えている為、ボディーメカニクスやトランスの方法の研修、職員間で話合の場を設け、事故軽減や介助負担の軽減に繋げていきたい。 ・職員間の情報共有については、ショートステイの入居者の ADL の低下、ご家族からの要望の増加に伴い、まれに申し送り忘れがあった。ご家族からの希

	望が職員間で徹底できていない状況があった為、現在活用している申し送りファイル含め、申し送り方法の見直し、周知徹底に繋げていきたい。個別ケアの点では、ご家族からの聞き取りと24hシートの活用から、一部の入居者の起床時間の見直しを行った。結果的に、日中の安定につながった。また一部の入居者の要望から買い物レクを行ったが、その後笑顔が増えている為、今後も定期的に続けていきたい。
B-2 ユニット 基本目標	・清潔感のある生活環境で、入居者が快適に過ごせるよう支援をする。 ・職員の情報共有を高める事で、入居者に満足していただける支援をする。 ・入居者に寄り添い、笑顔のあるユニットを目指す。
評価	・全体的には清掃、整理整頓はできていたが、職員が手薄の時はトイレ掃除ができない事があった。 ・情報の中で各自がその重要性を判断していた事で、職員間に情報が伝わらない事もあった。それが原因で、入居者へのサービス提供が数日遅れる事もあった。 ・入居者の訴えには、時間のある中で傾聴や要望に対応する事ができ、比較的に寄り添う事ができていた。
B-3 ユニット 基本目標	・入居者の対応（支援等）について、職員間で今まで以上に情報共有をし、それぞれが円滑に支援できようにする。 ・穏やかで、笑顔のある清潔な生活環境（空間）の提供をする。 ・できる限り一人ひとりの要望に応え、より良い生活を送って頂けるよう努める。
評価	・情報の重要性に関わらず、十分に情報を共有し、スムーズに入居者の対応が出て来ていた。 ・入居者（一部の）の要望に応え、ご本人にとっての満足のいく環境は提供できていたと思うが、要望が多いゆえに、他入居者（訴えない方等）はどうだろうかと疑問に思う。時間的、人員的にも限りがあるところで、すべての入居者に対しての公平な関わりができればと思う。
B-4 ユニット 基本目標	1.接遇 ・接遇を意識して介護支援を行う。入居者との支援時は選択肢がある声掛けやコミュニケーションを図る。 2.環境整備 ・居室担当の環境整備の取り組み(実施前・後がわかるように取り組みをする) ・衣替えや衣類の清潔への取り組み 3.ユニット会議 ・年 4 回以上実施し、上半期・下半期にて進捗状況の修正・評価をする。 4.直接的な支援 ・うがい、ブラッシング、舌洗浄への、より細かな取り組み ・個別ケアに沿っての水分補給への取り組み

評価	・適切な声掛けなど接遇を意識して入居者の生活支援をしたが、業務優先になる事が多く見受けられた。 ・違いを明確にする為にも、環境整備（居室内やユニット内共有スペース等）の実施前には写真を撮り、各担当者と打ち合わせをしながら、よりよい雰囲気作りに向けて取り組めた（ベッドの位置や置物の位置など）。 ・職員の諸事情、入れ替わりが多く、年４回のユニット会議を行ったが、有意義な会議とは言えなかった。 ・各居室にうがい薬を準備し、介助が必要な入居者に対しては、舌の汚れの除去など口腔内の清潔保持に取り組んだ（歯ブラシ月一回交換、スポンジブラシ１日交換）。 ・毎食決められた時間以外にも、入居者が食堂で過ごされている為、水分提供ができた。水分だけではなく、個人持ちの間食等も普段の生活場面で提供できたので、楽しみや笑顔に繋がっていたと思う。
C-1 ユニット 基本目標	積極的にコミュニケーションを取り、入居者の要望に応えられるよう協力し合える体制を作り、対応や要望に応えるよう心かけ支援する。
評価	月に一度のレクリエーションを行えて、入居者が笑顔になれていたと思う。外出のレクリエーションがあまりできなかったと思う。 入居者の対応や要望に応えられるときと応えられないときがあり、意見をもっと汲み取る必要があった。
C-2 ユニット 基本目標	・毎日、少しでも多くの入居者と会話する時間を作り、コミュニケーションを深める。 ・「やめて下さい」「～して下さい」等、入居者の行動を制限・強制する声掛けや身体介護を行わない。 ・職員のミスによる事故の防止に努める。
評価	①　・業務に追われて、コミュニケーションを深めることは出来なかった。 ・おしぼり巻きや洗濯物たたみ等の作業を通して、コミュニケーションを取ることはできた。 ・普段の会話から希望を汲み取り、レク実施へと繋げたことが少なからずできたと思う。 ②・身体的行動制限はしなかったと思う。 ・業務に追われ、精神的に追い込まれてスピーチロックをしてしまった。 ・意識をして無いけど、制限する声掛けをしてしまったかも知れない。 ③・薬の内服確認ミスや、喉に食事を詰まらせてしまう事故があった為、達成できなかった。
C-3 ユニット 基本目標	入居者の個別の対応を理解し、入居者一人一人が居心地良く生活できるユニットにする。また、忙しい時も言葉遣いに注意し仕事を行う。

評価	・入居者の個別の対応を意識し仕事を行うように心掛けたが完璧にはできなかった。 ・言葉遣いを意識していたが、強い口調で話してしまったり、言葉遣いが乱れてしまった。 ・ユニット内のレクをする機会が少なく感じた。
C-4 ユニット 基本目標	・一人ひとりが安心して明るく生活できるように生活情報を確認しながら、ユニットケアの実践に取り組む。 ・定期的にレクリエーションの計画を立て実施する。また、季節ごとのレクリエーションを行って季節を味わっていただき、笑顔に繋がる活動を行う。 ・職員は笑顔を忘れない。
評価	・外出レクが思うようにできなかったが、調理レクやおやつレクは少しできたので良かった。 ・ユニット内を明るい雰囲気を作るように心掛けていたが、業務に追われてしまい会話や声掛け等の余裕がなくなっていた。 ・季節ごとのレクが出来なかった。 ・一人一人の生活リズムに合わせて生活していただけたと思う。無理せず延食したり、離床、臥床することが出来た。 ・レクをあまり多く実施できなかった。 ・忙しく慌ただしくなってしまうことがあった。 ・レクに関してはリーダーの管理不足、職員への促しも少なかったため、来年度は改善するようにする。 ・パート職員の長期休養により、業務が慌ただしくなり、余裕があまりなくバタバタしてしまった。 ・毎日のレクが体操のみになってしまい、来年度は改善したいと思う。

通所介護事業報告書

1. 事業概要

特養併設型通所介護事業所として、要介護・要支援者を対象に通常型のデイサービスで日帰り介護をし、在宅での生活が維持できるよう支援しています。また、総合事業「交流型」通所サービス「運動型」通所サービスを行い介護予防事業の一端を行っています。

2. 月間利用者数

29 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	473	529	553	562	589	541	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	584	634	601	532	557	603	6,755
30 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	541	566	575	597	650	580	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	617	610	587	484	494	598	6,899

3. 介護度別利用者数

（3 月末日現在）

要介護度	事業対象	要支援	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5
29 年度	14	12	17	13	16	4	2
30 年度	11	11	19	17	13	3	3

4. 事業所で特別に行ったこと

○　利用者のお誕生日に、お花・写真のプレゼント。
○　新年会、節分、ひな祭り、お花見、夏祭り、クリスマス会などの季節行事。
○　敬老の日前後に、「感謝祭」を開催。他部署の職員にも加わってもらう。
○　さつま芋・野菜・花等の園芸活動や、桜・バラ・コスモス観賞のドライブ。
○　各種舞踊やマジック、朗読会などのボランティアをお招き。

5. 職員の状況

（3 月末日現在）

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
相談員（管理者）	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
相談員	1			男	介護支援専門員、介護福祉士
介護職	3	4		女	介護福祉士
介護職		1		女	
看護師		2		女	准看護師
運転手		3		男	普通自
合計	6	8			

6. 目標に対する自己評価

基本目標 1	利用者･家族が利用しやすい環境を整備する。 地域の中のデイサービスを意識する。
重点課題	積極的なボランティア等の受け入れに努めます。 総合事業における「交流型」「運動型」通所介護の安定した運営に努めます。 新しい体操･プログラムを取り入れ介護予防に努めます。 集団での楽しみ「遊びリテーション」と個別での楽しみ「選択レクリエーション」を充実します。 「季節行事」「園芸活動」を通して生活意欲を高める。 利用時間・送迎時間など柔軟に対応できるよう努めます。 接遇向上に取り組みます。
評価	「歌や踊り」などのイベント的なボランティアに加え、「ネイルや写経」など趣味活動的なボランティアの受け入れを増やすことが出来た。百歳体操を中心とした「運動型」では定期的な体力測定により現状の確認、意欲向上ができた。遊びリテーションを中心とした「交流型」ではデイサービス利用者との交流もいい刺激となっていた。園芸活動では指扇保育園の園児達の参加も恒例となってきている。今後も地域の方達との交流の場として盛り上げていきたい。朝の申し送り時、接遇に関する標語の唱和に職員間のハイタッチを加えモチベーションアップを図った。
基本目標	広報活動に努めます。
重点課題	毎月「ほほえみだより」を作成する。 法人のホームページを活用する。 居宅介護支援事業所へ広報する。
評価	毎月滞りなく、笑顔をテーマにした「ほほえみだより」を作成し利用者･家族へ配布することがすることが出来た。法人のホームページのブログの更新が滞っており、うまく活用していきたい。また、居宅介護支援事業所への訪問活動も行っていきたい。

在宅介護支援センター事業報告

1. 事業概要

在宅で生活しているお年寄りが、日常生活を営むために必要な保健医療サービス又は福祉サービスの適切な利用をすることが出来るよう計画を作成すると共に、市からの事業受託にて独居高齢者等の実態把握や介護サービス啓発のための事業などを行っています。

2. 月間利用者延数

29 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	213	206	203	198	192	192	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	196	201	208	208	199	204	2,420
30 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
	197	206	202	204	203	186	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
	189	188	188	180	179	184	2,306

※上記数は要支援+要介護。

※30 年度 9 月から 3 月まで職員 1 名休職。

3. 介護度別利用者数

（3 月末日現在）

要介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
29 年度	14	16	63	47	37	15	12	204
30 年度	16	16	63	40	32	11	6	184

4. 事業所で特別に行ったこと

- ○ 県立大学IP演習参画（10 月）
- ○ ケアマネジャー合格者実務研修実習生受け入れ 1 名
- ○ 出張無料相談会（公民館、西楽園、湯けむり横丁）12 回
- ○ 高齢者サロンへの参加、自治会勉強会でのお手伝い
- ○ 指扇地区社協地域福祉推進委員会（地域福祉行動計画作成）出席
- ○ 指扇地区社協理事会出席
- ○ 一人暮らし高齢者世帯見守り訪問（随時）
- ○ 民協への広報活動 1 回
- ○ ふれあい会食で相談窓口の設置(指扇及び内野地区社協) 20 回
- ○ 西区区民まつりへの出展（11 月）
- ○ 西区「健幸フェスティバル」参画（10, 11 月）
- ○ 認知症サポーター養成講座「劇団にしく」、西区認知症ｷｬﾗﾊﾞﾝﾒｲﾄ連絡会への参加
- ○ 西区特定事業所連絡会の立ち上げと主催、参加 計 4 回

5. 職員の状況

（3 月末日現在）

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
センター長 （管理者）	1		○	男	主任介護支援専門員
ケアマネ	1 2 1 	 1		女 女 男 女	主任介護支援専門員　社会福祉士 介護支援専門員　介護福祉士 介護支援専門員　介護福祉士 介護支援専門員　社会福祉士　介護福祉士
合計	5	1			

6. 目標に対する自己評価

基本目標	① 介護報酬改定内容を早期に共有し、加算項目に対応した業務遂行ができる。 ② 福祉機関として地域に貢献し、事業所の存在を地域に定着させる。
重点課題	① 特に、入退院時の病院との連携を適時行い、加算給付費を請求できる。 ② 社会福祉法人及び地域包括支援センターのブランチとして地域活動に積極的に参加し、介護保険事業だけでなく地域に貢献している事業所と認知してもらう。
評価	① 新年度になって増額、条件緩和された入院・退院加算を意図的につけるよう努めた。結果前年度総計 57 件だった加算件数は今年度 86 件と 5 割増しできた。 ② 指扇地区社協を中心に貢献。特に地域福祉部会や祭りへの参加など、新たな地域活動への参加機会を得た。要介護認定利用者の減少傾向が課題であるが、要支援認定利用者は増加しており、当地域活動が徐々に効いているものと評価する。

地域包括支援センター事業報告

1. 事業概要（実績）

	地域活動	ネットワーク構築	認知症サポーター養成講座・その他
H30 4月	・いきいき西大宮（ラヴィ-レ） ・サロンおあしす（五味貝戸自治会館） ・きらめきサロン（ニチイのきらめき） ・赤羽スマイルサロン ・指扇地区社協会食会 ・内野地区社協会食会	・キャラバンメイト連絡会	・薬剤師会学習会 ・イキイキ情報館
5月	・きらめきサロン（ニチイのきらめき） ・いきいき西大宮×２（ラヴィ-レ） ・サロンすずらん（清河寺ふれあい館） ・赤羽スマイルサロン（赤羽根自治会館） ・下宝来カラオケ会（下宝来自治会館） ・いきいきサロン（県営宝来団地）	・西区包括ケアネット ・地域支援会議	・講座：サロンの講師紹介します ・認サポ：宮前中学校（劇団）
6月	・いきいき西大宮×２（ラヴィ-レ） ・きらめきサロン（ニチイのきらめき） ・パンジーサロン（ラヴィ-レ） ・いきいきサロン（さしおうぎ団地自治会館） ・いきいき運動クラブ（穂積自治会館） ・やよい会（中釘自治会館） ・赤羽スマイルサロン（赤羽根自治会館） ・オーベル ・指扇地区社協会食会 ・内野地区社協会食会 ・西区民生委員高齢者部会	・キャラバンメイト連絡会 ・指扇地区社協地域福祉推進委員会企画会議 ・指扇サロン連絡会	・イキイキ情報館 ・すこやか運動教室（滝沼川遊水地）
7月	・CC さいたま三橋クラブ（ケアローソン） ・笑扇会（指扇領別所自治会館） ・きらめきサロン×２（ニチイのきらめき） ・いきいき西大宮×２（ラヴィ-レ） ・下宝来いきいきサロン（下宝来自治会館） ・サロンおあしす（五味貝戸自治会館） ・パンジーサロン（ラヴィ-レ） ・にこにこサロン（下郷自治会館） ・宮前のびのびサロン ・内野いきいき体操サークル 2018（内野公民館）		・認サポ：宮前小学校チャレンジスクール（劇団） ・認サポ：指扇地区社協地域福祉学習会（劇団）
8月	・サニーホーム納涼祭 ・内野いきいき体操サークル 2018×２（内野公民館） ・わかば会（内野公民館）		・イキイキ情報館 ・すこやか運動教室（滝沼川遊水地） ・認サポ：指扇社協夏休みボランティア体験（劇団） ・認サポ：植水夏休み福祉講座（劇団） ・認サポ：土屋中学校（劇団）
9月	・四地区合同敬老会（下郷自治会館） ・内野地区社協会食会 ・西区民会議 ・いきいき運動クラブ（穂積自治会館） ・中郷自治会敬老会 ・赤羽スマイルクラブ（赤羽根自治会館） ・いきいき西大宮×２（ラヴィ-レ） ・森と風のサロン（内野本郷自治会館） ・さわやか体操クラブ（内野本郷自治会館）	・地域支援会議	・いきいきサポーター養成講座×２ ・講座：サロンを運営して分かったこと
10 月	・いきいき西大宮×２（ラヴィ-レ） ・赤羽スマイルクラブ（赤羽根自治会館） ・オーベル ・穂積元気かい（穂積自治会館）	・指扇地区社協サロン交流会 ・キャラバンメイト連絡会	・健幸フェスタ（植水公民館） ・健幸フェスタ（馬宮公民館） ・いきいきサポーター養成講座 ・イキイキ情報館

	・サロン共栄（共栄自治会館） ・やすらぎ会（ライオンズマンション大宮指扇）	・指扇地区社協地域福祉行動計画策定委員会	
11月	・いきいき西大宮（ラヴィ-レ） ・秋葉自治会 ・下宝来いきいきサロン（下宝来自治会館） ・にこにこサロン（下郷自治会館） ・赤羽スマイルクラブ（赤羽根自治会館） ・駅前サロン YOU 遊 ・西区民生委員高齢者部会		・西区ふれあい祭り ・健幸フェスタ（西部文化センター） ・百歳体操おさらい講座 ・認サポ：指扇中学校 ・認サポ：植水地区福祉部会 ・認サポ：内野地区福祉講座 ・認サポ：フォレスト指扇
12月	・お喋りサロン（住友団地） ・コーヒーサロン（けやき台） ・下宝来いきいきサロン（下宝来自治会館） ・赤羽スマイルクラブ（赤羽根自治会館） ・駅前サロン YOU 遊 ・穂積元気かい（穂積自治会館）	・指扇地区社協地域福祉行動計画策定委員会	・イキイキ情報館 ・認サポ：西区区民向け認サポ
1月	・すこやか体操（内野公民館） ・森と風のサロン（内野本郷自治会館） ・オーベル ・内野地区社協会食会 ・いきいき西大宮（ラヴィ-レ） ・駅前サロン YOU 遊 ・やすらぎ会（ライオンズマンション大宮指扇）	・地域支援会議 ・西区包括ケアネット	・サロン情報交換会
2月	・CC さいたま三橋クラブ（ケアローソン） ・ひまわりクラブ（内野公民館） ・いきいきうんどう塾（敬寿園宝来ホーム） ・サロンおあしす（五味貝戸自治会館） ・サロン陽だまり（太陽ヶ丘自治会館） ・駅前サロン YOU 遊 ・森と風のサロン（内野本郷自治会館） ・オーベル ・白寿クラブ（西新井団地自治会館）		・いきいき情報館 ・認サポ：サロンおあしす（五味貝戸自治会館）
3月	・おあしす（五味貝戸自治会館） ・オーベル ・駅前サロン YOU 遊 ・内野いきいき体操サークル	・地域支援会議 ・西区包括ケアネット	・百歳体操おさらい講座 ・認サポ：西中学校 ・認サポ：西警察署

※　　は認知症サポーター養成講座です。

2. 月間利用者数

29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	387	391	407	427	439	438	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	445	433	449	440	430	437	5,123
30年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	415	420	436	432	436	436	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	454	458	454	444	459	458	5,302

3. 職員の状況

職　名	人　数		兼務の状況	性別	資　格
	常勤	非常勤			
管理者・社会福祉士	1		○	男	社会福祉士　介護支援専門員
社会福祉士	1 1			男 女	
主任介護支援専門員	3			女	介護支援専門員　介護福祉士
看護師	2			女	看護師　介護支援専門員
生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ		1		男	
合計	8	1			

4. 目標に対する自己評価

基本目標 1	いきいき百歳体操を広める。
重点課題	①地域活動にて 10 回程度、実演を行う。 ②いきいき百歳体操の自主グループを 2 か所立ち上げる。 ③ますます元気教室の参加経験者を中心に自主グループ立ち上げの支援を行う。
評　価	昨年度は、いきいき百歳体操を広めるため、17 か所の場所で延べ 24 回の実演を行い自主グループ化の支援を行った。その結果、自主グループが 4 か所立ち上がっている。そして、その全てのグループで、ますます元気教室の参加者にグループの運営を協力していただくことができた。今年度も引き続き、いきいき百歳体操の自主グループの立ち上げを支援していく。
基本目標	成年後見制度の利用窓口としての機能を強化する。
重点課題	①包括内で月 1 回研修を行う。 ②ケアマネ会議で勉強会を行う。 ③介護者サロンにて相談会を行う。
評　価	昨年度は、成年後見制度の利用窓口としての機能を強化するため活動してきた。包括内での研修はミーティングの時間を利用し、毎月行うことはできなかったが、数回行うことができた。成年後見制度の概要、流れを包括職員が説明という形で研修をおこなった。その結果、包括職員間にも制度の理解度に差があり共通理解ができなかった。今後は制度理解の底上げが必要と思われる。 ケアマネ会議では2回勉強会を実施した。こちらもケアマネジャーによって制度理解に差があることがわかった。 介護者サロン、オレンジカフェにて無料相談会を3回行った。参加者が少なく、開催場所を増やし周知する必要があると思われる。 昨年度を総括して、機能強化までは達成できなかったと思われるが、活動を通し包括職員間やケアマネジャー間の制度理解に差があるという課題が明確になったので、引き続き課題解消のため活動していく。